

四島は日本の領土

2014「北方領土の日」 根室管内住民大会

— 2 / 7 —

2月7日の北方領土の日は、北方領土問題に対する国民の関心と理解を更に深め、返還運動のさらなる推進を図るために1982年（昭和56年）に閣議了解によって決められました。

北方領土の返還を求める大会は、東京や札幌など、さまざまな場所で開かれている中、領土返還要求運動原点の地、根室市においては、根室管内1市4町の住民など千人が集結し、早期返還を求める2014「北方領土の日」根室管内住民大会が市総合文化会館で開かれ、北方領土問題の解決と平和条約の締結に向けて今年で34回目の「氣勢」を挙げました。

2月7日の北方領土の日は、1855年（安政元年）日本とロシアとの間で「日魯通好条約」が調印され択捉島とウルップ島の間に国境が確認された日です。

「北方領土の日」根室管内住民大会は、北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会（北隣協）が主催し、昭和56年に納沙布岬で行われたのが最初で、以後管内を持ち回りで開き、平成9年から根室市に固定となり、今年で34回目を迎えました。

わが国の固有の領土である北方

四島が不法に占拠されてから68年が過ぎ去り、終戦当時、四島を追われた17,291人の島民の約6割が、ふるさとに帰ることを夢見ながら亡くなり、生存者の平均年齢も80歳という現状にあります。

昨年4月には、安倍総理が日本の総理大臣としては実に10年振りにモスクワを公式訪問し、日露首脳会談が開かれました。また、2月7日の根室管内住民大会の翌日には、冬季五輪開催中のロシア・ソチで5度目となる首脳会談が開催されるなど、日露間における北



川村 綾香 さん

これからも一日も早い領土返還に向け行動する



白崎 賢哉 さん

不退転の決意と過去の返還運動にまい進する



岡田 春美 さん

残された時間を振りしほり全力を尽くす

一次代を担う中学生の弁論大会



根室管内の中学生10人による弁論大会が行われ、最優秀賞受賞の別海町立西春別中学校2年の河原駿君は、「返還のために」と題し、ビザなし交流で、ロシア人との交流をしたことを受け、日本人全員が北方領土に関心を持ってもらうことで、ロシアとの交流を絶やすことなく、強く主張していかなければならないことなどを訴えました。

方領土解決に向けた政治対話が継続的に行なわれてい
す。
大会の当日、市総合文化会館には、頭に「返せ北方領
土」などと書いた鉢巻やたすきを身につけた根室管内1
市4町の住民など千人が詰めかけました。
第1部の式典では、始めにふるさとに帰ることを夢見
ながら他界した元島民に黙祷をささげ、返還への誓いを
新たにしました。
その後、北隣協の会長を務める長谷川市長のあいさつ、
そして来賓による激励に続き、元島民で志発島出身の白
田春美さん、国後島元島民二世の白崎賢哉さん、根室高
校3年で水島元島民三世の川村綾香さんの3人による
決意表明が行なわれました。
第2部では、根室管内の中学生10人による弁論大会が
行なわれ、弁論発表を通して、次代を担う返還要求後継
者が着実に育っていることを感じ取らせてくれました。
最後に、1市4町の千島連盟青年部5人の声援で、北
方領土の返還を求めるシュプレヒコールを会場全体で行
い、国内外に熱い想いを発信しました。

2月7日の「北方領土の日」に向けた取り組み



—北方領土返還祈念ちびっ子凧揚げ大会—

「北方領土の日」を前に、2月2日北方四島交流センター（二ホロ）において、今年で3回目となる「北方領土返還祈念ちびっ子凧揚げ大会」が行われました。

集まった親子40人のうち小学生以下17人が参加。子どもたちは、凧のシートに四島や動物の絵などをマジックで自由に描き、出来上がった凧を早速二ホロの玄関前で、親子ともども早期返還の願いを込めながら凧を揚げていました。



—北方領土フォト川柳展—

「北方領土の日」に合わせた、「北方領土フォト川柳展」が、北方四島交流センター（二ホロ）において、2月1日から28日まで開かれました。

四島や返還運動にちなんだ北方領土川柳社（札幌）が公募した第26回北方領土大賞の入選作の川柳に写真を添えた川柳展には、「島還る日までは昭和は終われない」など思いがこぼれた作品がならんでいました。



—姉妹都市黒部市との給食交流—

昨年から2月7日の北方領土の日にちなんだ啓発活動の一環として、市と東海大学海洋学部との共同開発したサンマフライを黒部市へ今年も提供することを受け、黒部市からは、特産品の「黒部米」260キロが根室市内の小中学校の学校給食に提供されました。

取材した成央小学校5年生児童たちは、食べて「甘い、おいしい」と話し、味も好評のようでした。